

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「宇治拾遺物語／絵仏師良秀」問題

これも今は昔、絵仏師良秀と①いふ②ありあけり。家の隣より火③出で来て、風④おしおほひて

⑤せめイければ、⑥逃げ出でて、大路へ⑦出でウにエケリ。人の⑧かかオする仏も⑨おはしきれり。

また衣⑩着キぬ妻子なども、さながら内に⑪ありケリ。それも⑫知らキズ、ただ⑬逃げ出で

クたるをして、向かひのつらに⑭立てケリ。

「いかに。」と人⑯言ひセければ、「あさましきこと。」とて、人ども⑰来⑱とぶらひシけれど、⑲騒がスズ。

立ちて⑲眺めサケれば、「あさましきこと。」とて、人ども⑳来㉑とぶらひシけれど、⑲騒がスズ。

「いかに。」と人㉃言ひセければ、「あはれ、㉅しタつる」せうとくかな。年ごろはわろく㉗かきチけるもの

て、時々㉗笑ひソケリ。「あはれ、㉅しタつる」せうとくかな。年ごろはわろく㉗かきチけるもの

かな」と㉙言ふ時に、とぶらひに㉛來ツたる者ども、「こはいかに、かくては㉜立ち㉝たまヘテる

ぞ。あさましきことかな。物の㉔つき㉕たまヘトるか。」と㉖言ひナケレバ、「なんでふ物の㉗つく

ニベキぞ。年ごろ不動尊の火炎を悪しく㉘かきヌけるネなり。今㉙見れば、かうこそ㉚燃え

ノけれど、㉛心得ハツルヒなり。これこそせうとくよ。この道を㉛立てて世に㉝あらフんには、

仏だによく㉔かきたてまつらば、百千の家も㉕出で來^ハなん。わたうたちこそ、させる能も

㉖おはせマねば、物をも㉗をしみたまへ。」と㉘言ひて、㉙あざ笑ひてこそ㉚立てミリムけれ。

そののちメニや、良秀がよぢり不動とて、今に人々^ハ愛で合ヘモリ。

古文 品詞分解（動詞・助動詞）「宇治拾遺物語／絵仏師良秀」問題

ハ四体 ラ変用 過去

カ変用

ハ四用

これも今は昔、絵仏師良秀と^①いふ^②ありアけり。家の隣より火^③出で来て、風^④おしおほひて

マ下二用 過去

ダ下二用

ラ変用 過去

カ四末 使役

サ変用 過去

⑤せめイければ、^⑥逃げ出でて、大路へ^⑦出でウにエけり。人の^⑧かかオする仏も^⑨おはしきれり。

力上一末 打消

タ四用

ラ変用 過去

カ四末 打消

ダ下二用

また衣^⑩着キぬ妻子なども、さながら内に^⑪ありケリ。それも^⑫知らキズ、ただ^⑬逃げ出で

完了

クたるをことにして、向かひのつらに^⑭立てケり。

マ上一⑫

ラ四用

ラ四用 過去

タ四用

マ下二用 過去

タ四用

ラ変用

タ四用

ラ変用 過去

カ下二体

マ上一用

過去

カ四用

ガ四末

打消

カ四用

ガ四用

打消

「いかに。」と人^㉓言ひセければ、「あさましきこと。」とて、人ども[㉐]来^㉑とぶらひシけれど、^㉒騒がス^ズ。

タ四用

ラ変用

ラ四用

ラ四用 過去

カ四用

カ下二用

過去

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

て、時々^㉗笑ひソケリ。「あはれ、^㉙しタつるせうとくかな。年ごろはわろく^㉙かきチけるもの

ハ四用 過去

サ変用 完了

カ変用 存続

カ四用

ハ四用

過去

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

かな」と^㉚言ふ時に、とぶらひに^㉛來^ツたる者ども、「こはいかに、かくては^㉟立ち^㉞たまへ^テる

ハ四用

サ変用 完了

カ変用 存続

カ四用

ハ四用

過去

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ぞ。あさましきことかな。物の^㉔つき^㉕たまへ^トるか。」と^㉖言ひナければ、「なんでふ物の^㉗つく

カ四用

ハ四用

存続

マ上一⑫

過去

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

ニべきぞ。年ごろ不動尊の火炎を悪しく^㉘かきヌける^ネなり。今^㉙見れば、かうこそ^㉚燃え

詠嘆

ア下二用 完了

断定

カ四用

詠嘆

断定

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

ノけれど、^㉔心得ハつるヒなり。これこそせうとくよ。この道を^㉚立てて世に^㉛あらフんには、

カ四用

カ変用 強意

推量

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

カ四用

仮だによく^㉔かきたてまつらば、百千の家も^㉕出で來^ハなほん。わたうたちこそ、させる能も

サ変未

打消

マ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

ハ四用

⑯おはせマねば、物をも^㉗をしみたまへ。」と^㉘言ひて、^㉙あざ笑ひてこそ^㉚立て^ミりムけれ。

断定

そののちメにや、良秀がよぢり不動とて、今に人々^ニ愛で合^モり。